

新聞新報

2007年(平成19年)8月19日 日曜日

千葉震度4も 余震続く

18日午後、千葉県東方沖の深さは約20〜30キロと推定周辺を震源とするマグニチュード(M)4.0〜5.1の地震が4回あり、千葉県一宮町で震度5弱を観測した。気象庁によると、震源が活発化、専門家は引き続き

き余震の危険があるとして警戒を呼びかけている。

余震とみられる地震は、

18日午後1時36分と同4時55分、同5時7分、同11時16分ごろに起き、千葉県一宮町、睦沢町、長南町、大多喜町で震度4を2回、同県いすみ市、茂原市などで震度4を1回、同県千葉市、東金市、市原市などで震度3を観測した。

千葉県東方沖周辺は、陸

側のプレート(板状の岩盤)

に南からフィリピン海プレートが沈み込むプレート境界で、群発的に地震が起こりやすい地震の巣とされる。1990年と2002年にも数週間程度M3〜5クラスの地震が続いた。

阿部勝征・東大名誉教授

(地震学)は、「プレート境界付近の岩盤の性質が均一でないため、地震を発生させる岩盤のずれが徐々に進んでいると考えられる。今後最大M5クラスの地震が長くて1か月くらい続く可能性がある」と話している。

◇

相次ぐ地震に地元では不安の声が出ており、震度5弱を記録した一宮町に隣接する長生村の温浴施設「太陽の里」には18日、宿泊予約客から「泊まることはできるのか」などの問い合わせが相次いだ。久保聖支配人(45)は「施設には影響はないが、風評被害が心配」と話した。一方、一宮町や九十九里町の海岸には大き

な影響がなく、18日も多くの海水浴客やサーファーらが訪れた。